

【集計結果】

Q.1 児童青少年サービス担当者

置いている	31	専任	7
		兼任	24
置いていない	14		

Q.2 子どもの読書に関する調査

実施	15
未実施	30

Q.3 子どもの読書啓発冊子または推薦図書リスト

作成している	34
作成していない	11

Q.4 外国籍の子どもへのサービス

実施	29
未実施	16

実施のうち

■おはなし会

実施	3
未実施	26

\*実施具体内容(担当職員・対象・内容)

・担当: 司書	1
その他	2
・対象: 区別なし	3
・内容: 英語の読み聞かせ	1
読み聞かせ、手遊び、クイズ、ゲーム、歌など	1
読み聞かせ、紙芝居、手遊び、工作	1

■利用者への案内

実施	16
未実施	13

\*実施具体内容(リスト作成の有無・排架方法)

・リスト作成: あり	1
なし	15
・排架方法: 外国語の一般図書と絵本を分ける	7
外国語の絵本コーナーを設置	5
別置しているが、一般・児童・絵本は同じ場所に排架	2
言語別にし、一般図書と絵本を分けている	1
洋書のコーナーに母国語やバイリンガルの図書を別置	1

■資料の種類(言語)

外国語資料所蔵あり	29
外国語資料所蔵なし	0

\*外国語資料の言語(複数回答)

・英語	29
・中国語	15
・ポルトガル語	13
・韓国語	12
・スペイン語	12
・フランス語	11
・ドイツ語	11
・その他 (アイスランド語 1、アラビア語 1、イタリア語 1、エスペラント語 1)	1

オランダ語 2、スウェーデン語 1、スワヒリ語 2、タイ語 1  
 デンマーク語 3、ネパール語 1、ノルウェー語 1、ベトナム語 1  
 ロシア語 1)

Q.5 図書館利用に障害のある子どもへのサービス

実施 32  
 未実施 13

実施のうち

■おはなし会

実施 13  
 未実施 19

\*実施具体内容(担当職員・対象・選書、内容の構成で気を付けることなど)

・担当:司書	8
司書以外の図書館職員	1
その他	4
・対象:障害者のみ	7
区別なし	6
・選書、内容の構成で気を付けることなど:	
年齢よりも優しい作品を選ぶようにしている	2
知的障がい者への選書は、理解や興味の程度に合わせている	1
一緒に楽しめるもの、パネルシアターや素語りなど	1
おはなしだけに偏らず、見て楽しめるものなども含めた構成にする	1
健常者と同様に実施している	1

■資料(点字図書等)の利用・貸出など

実施 32  
 未実施 0

\*実施具体内容(対象・点数・期間 ※貸出をしない場合の利用の範囲)

・貸出対象:障害者のみ	1
区別なし	31
・貸出点数:一般資料を含む	25
4点まで	2
3点まで	1
1点まで	1
30点まで(障害者のみ)	1
点字資料は館内閲覧のみ、その他は一般資料に準ずる	1
※貸出なし	1
・貸出期間:一般資料と同様	31
・貸出をしない場合の利用の範囲:	
館内のみ	1
※点字資料は館内閲覧のみ、その他は一般資料に準ずる	1

■資料の種類(複数回答)

・点字図書	31
・大活字本	20
・さわる絵本	17
・朗読テープ等	16
・布絵本	15
・マルチメディアDAISY	3
・その他(点字付き大型絵本)	2

Q.6 図書館または自治体独自の図書館職員研修

実施 24  
 未実施 21

実施のうち

■学校司書との研修会

実施 17  
 未実施 7

*実施具体内容(開催場所・開催頻度・研修会の内容)	
・開催場所:自治体内図書館	12
自治体内学校	3
その他(自治体内公共施設、大学図書館)	2
・開催頻度:月1回	
1	1
隔月	1
年4回	1
年3回	10
年2回	1
年1回	3
・研修会の内容(複数回答):図書館相互の連携、要望、情報交換	
連絡会議	6
新任研修	5
司書のありかた	5
教育と学校図書館	1
選書等についての意見交換	1
推薦図書の選定	1
読み聞かせ	1
ブックトークの勉強	1
読書会	1
児童書の研究	1

■読み聞かせ講座

実施	14
未実施	10

\*実施具体内容(開催月または年間回数・対象・講師・講座の内容)

・年間回数:年5回	
1	1
年3回	6
年2回	2
年1回	5
・対象:一般受講可	
13	13
職員のみ	1
・講師(複数回答):外部講師	
14	14
司書	2
司書以外の図書館職員	1
・講座の内容(複数回答):読み聞かせ講座	
7	7
絵本とおはなしを楽しむ講座	6
絵本の選び方	4
読み聞かせボランティアの養成	1
グリム童話講座	1
ブックトーク講座	1
絵本作家講演会	1

■レファレンス講座

実施	4
未実施	20

\*実施具体内容(開催月または年間回数・対象・講師・講座の内容)

・年間回数:年3回	
1	1
年1回	3
・対象:職員のみ	
4	4
・講師:外部講師	
4	4
・講座の内容(複数回答):データベース研修	
3	3
レファレンスの進め方、例題説明	1
Tool-iの使い方	1

Q.7 図書館または自治体独自の読書ボランティア、自治体内の保育所・幼稚園等及び子育て支援センター・児童館等への新たなサービス

実施	26
未実施	19

\*実施具体内容(複数回答)

出張おはなし会	11
資料の団体貸出	9
合同イベント	7
移動図書館の訪問	4
乳幼児検診時の読み聞かせ・本の紹介	3
読み聞かせ、朗読等講座の開催	2
子育て支援講座の講師	2
資料のセット貸出	1
大型本等の充実	1
保護者への啓発活動	1
保育園へのボランティア派遣	1
活動場所の提供	1
学校へ出向き、利用案内	1
学校での朝読書	1

Q.8 おはなし会や読書週間のイベントなどで問題になっていることなど

\*具体内容(複数回答)

イベント、おはなし会等への参加者の減少	17
イベントの開催時期	5
魅力あるイベントの企画(イベントのマンネリ化)	4
おはなし会担当職員の研修機会の確保	4
イベントの人員確保	3
イベント、おはなし会等への参加者の低年齢化	1
小学生対象のイベントの充実	1

Q.9 今後取り組みたいサービス、そのために課題になっていることなど

\*具体内容(複数回答)

セカンドブックへの取り組み(課題:予算の確保)	5
保育園・幼稚園での出張おはなし会開催(課題:人員不足。時間確保のための業務スリム化)	4
学校図書館との連携。イベント開催等(課題:協力体制の確立)	2
小中学校との連携。特に物流体制の確立(課題:人員不足)	1
児童館や子育て支援センターなどと連携した保護者向け絵本講座(課題:職員の育成。時間の確保)	1
保育園・子育て支援センターとの連携強化	1
児童館との連携(課題:人員不足)	1
図書館と他の課との連携・開催日程の調整など	1
YAサービスの強化	1
資料の団体貸出	1
お父さんおじいちゃんの読み聞かせ	1
小学生の学習スペースの確保	1
親子と一般利用者の共有(課題:一般利用者の理解・協力)	1
ブックスタート事業(課題:予算の確保。子育て支援課との連携)	1
新1年生への図書館利用啓発パックの配布(学校訪問)(課題:予算の確保)	1
図書館利用に障害のある子どもへのサービス	1
図書館を利用しにくい地域(辺地)への移動図書館の開設	1

【結果と考察】

図書館設置21市町村に調査を行い、平成24年度のサービス実施状況について45館から回答を得た。その結果、児童青少年サービス担当の職員を置いているのは68.9%で、うち29.2%が専任職員だった。子どもの読書に関する調査を実施した自治体は1/3だったが、担当者(専任・兼任)との関連性はあまり見受けられなかった。

子どもの読書を啓発するための冊子や推薦図書リストは75.6%で作成しているが、子どもの読書に関する調査を行っている館が、冊子やリストも作成しているというわけではなかった。外国籍の子どもへのサービスは64.4%の館で取り組まれていた。おはなし会を開催しているところは

3館のみであったが、どの館も対象を外国籍の子どもに限定してはいなかった。利用者への案内として、リストを作成しているところは1館のみであったが、排架方法にはどの館も工夫が見られた。また、外国語の資料については、すべての館で英語の資料を所蔵しているが、中国語や韓国語、スペイン語、ポルトガル語なども多かった。図書館利用に障害のある子どもへのサービスについては、71.1%の館が実施していると回答した。そのうち、40.6%の館でおはなし会を実施したが、担当は司書ではない館もあり、対象を障害者のみに限ってるところが半数あった。所蔵している資料の種類は、点字図書、大活字本、さわる絵本などが多い。また、それらの利用については、一般資料と同様に通常の貸出を行っているところが多かった。図書館または自治体独自の職員研修を実施しているのは53.3%で、専任職員のいる館は全館が実施していた。その中で、自治体内の学校司書との研修会を行っているところは70.8%だった。年に3回、自治体内の図書館で行っている館が多かった。内容は相互の連携や情報交換、連絡会議、新任研修などが多いが、図書の選定やサービスの研究などを行っている館もあった。読み聞かせ講座は58.3%の館で行っていた。年3回行っているところが多く、ほとんどの館が一般受講も可としている。内容は読み聞かせ講座や絵本・おはなしなどを楽しむ講座、絵本の選び方が多かった。レファレンス講座を実施している館は16.7%だが、すべて児童サービス担当者を置いている館であった。外部講師によるもので、内容はデータベース研修が多かった。関係機関・団体への新たなサービスは57.8%の館で実施した。(継続的なサービスを実施している館は多いと思われる。)

内容については、団体貸出、移動図書館等の資料面での支援、また、出張おはなし会や読み聞かせ、本の紹介などサービス面での支援が多かったが、講師や図書館ボランティアの派遣、保護者への啓発なども見られた。おはなし会や読書週間のイベントなどで問題になっていることは、参加者の減少、イベントの開催時期、企画、担当職員の研修機会の確保や人員確保などが挙げられた。今後取り組みたいサービス、そのために課題になっていることなどは事業には様々な回答があった。多くの館で新しいサービスに取り組みたいという意欲が見られるが、関係機関との連携、予算の確保や職員の人員確保などが課題となっているようである。

以上